

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●埼玉大学文化科学研究科日本・アジア研究専攻、文化環境研究専攻 「人文学によるスキル開発教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

当初予定していた既存の「教育プログラム」に加えて、実習科目の充実を図るため「翻訳論基礎Ⅰ・Ⅱ」、「辞書編集学Ⅰ・Ⅱ」を開設することができたが、受講者のニーズの集約が難しかった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

大学院生の関心やニーズが広範囲であったため、これらを集約することが非常に困難であり、新規実習科目の開設に時間を要することとなった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

大学院生の関心やニーズとあわせて社会的ニーズをより具体的に把握し、それぞれのニーズを踏まえた内容の授業科目を開設することができたために、今まで以上に文化科学研究科の人材養成の目的にあった教育を行うことが可能となった。